

## 平成 23 年度 博士後期課程学位論文要旨

## 学位論文題名

震災後の看護活動におけるチームワークの質を高めるコンピテンシーモデルの開発

学位の種類： 博士（看護学）

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 08994603

氏名：早野 貴美子

(指導教員名：河原加代子教授)

本研究の目的は、震災後の看護活動に焦点をあて、コンピテンシーを中心概念として位置づけ、チームワークの質を高めるための実践的な能力を解明することにある。

具体的には、i) チームワークの質を高めるコンピテンシーとは何か。その構成概念を明らかにする。ii) コンピテンシーを構成する要因がどのように関連し、チームワークの成果 (performance) に影響しているのか明らかにする。iii) チームワーク・コンピテンシーモデルを実測データに適用できる多重指標モデルとして実証する。以上3点を研究課題とし、震災後の看護活動におけるチームワークの質を高めるコンピテンシーモデルの開発を目的とした。

調査対象は、国内の震災後に看護活動を行った看護師 1220 名とし、自記式質問紙による郵送調査を行なった。調査期間は 2010 年 11 月～2011 年 2 月とした。

質問紙の内容は、対象の基本属性および震災時の活動状況に関する 22 項目、およびチームワーク・コンピテンシーに関する 20 項目を独自に作成した。

分析方法は、測定方程式モデルに基づいた確認的因子分析により、チームワーク・コンピテンシーの構成概念の因子構造と尺度構成項目の妥当性を明らかにした。続いて仮設モデルに基づき、多重指標モデルの検証を共分散構造分析にて行った。

48 施設 1220 名の看護師に依頼し 1046 名 (85.7%) から回答を得た。そのうちの有効回答 1018 名 (83.4%) を分析対象とした。

チームワーク・コンピテンシーの構成概念は、『情報の伝達』、『看護活動』、『相互支援』、『役割遂行』の 4 つで構成されると仮定し、測定方程式モデルに基づき、確認的因子分析を行った。その結果、モデルの適合度指標は、GFI=0.95、AGFI=0.93、CFI=0.97、RMSEA=0.05 と良好な適合度が得られ、構成概念の妥当性が実証された。

続いて『情報の伝達』、『看護活動』、『相互支援』は相関関係にあり、『看護活動』と『相互支援』は『役割遂行』に直接影響を与えるというチームワーク・コンピテンシーモデルを仮定し、共分散構造分析を行った。適合度指標は、GFI=0.95、AGFI=0.94、CFI=0.97、RMSEA=0.04 であり、データとモデルの適合度は良好であった。さらに、個人の役割や活動条件、被災状況等の特性をもとに 7 つのケースを設定し、それぞれのケースごとに等値制約を課した多母集団同時分析を行った。いずれのケースにおいても、区分された母集団は同一の分散・共分散をもつこと、および因子不変性が確認された。

すなわち、被災状況に関する『情報の伝達』を行い、時期を逸さない『看護活動』を展開し、コミュニケーションに基づいた『相互支援』行う過程を通して、チームの一員としてチームメンバーと最善を尽くした『役割遂行』につながるというチームワークが機能するしくみを説明できるモデルの妥当性が確認された。